

フローライト

ほたる いし (螢石)
FLUORITE

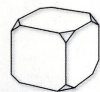
石英の柱状結晶を
ともなう無色の結晶。

製鉄用の融剤、
特殊光学レン
ズ、特殊ガラ
スなどの原料
に利用される。

晶系は等軸晶系で、
結晶形は立方体や八面
体の形になりやすく、
双晶のものもある。

硬度が低く、熱に
弱いため、アクセ
サリーに加工され
ることは少ない。

DATA FILE



等軸晶系

名 前	FLUORITE (フローライト) / 螢石
化学組成	CaF_2
色	無色、緑色、紫色、ピンク色など
光 沢	ガラス光沢
螢 光	ピンク色、紫色
条 痕	白色
劈 開	完全
断 口	不平坦
硬 度	4
比 重	3.18

螢石は熱水鉱脈中やペグ
マタイトに、石英、方解石、
重晶石、天青石などをと
もなって産出する。

螢石は純粋なものは無色だが、微量に
含有する希土類元素などや、結晶構造
の欠陥によって緑色、紫色、ピンク色
や、これらの色が混合するものもあり、
色の变化に富んでいる。

蛍石から発見された蛍光現象

蛍光があらわれるものはごく一部だが、紫外線をあてると光を発する蛍光現象は、蛍石から発見されたものだ。さまざまな希土類化合物を使用して電子的に蛍光を発生させるという仕組みにヒントを得てつくられたテレビのブラウン管は、蛍石の特性を応用している。

19世紀に、イギリスのダービーシャー州で産出した、紫色と黄色の美しい縞模様の蛍石は、ブルージョンと呼ばれて、花瓶や容器に加工されてきた。

▼ 蛍石の立方体結晶。イタリアのトレントで産出。



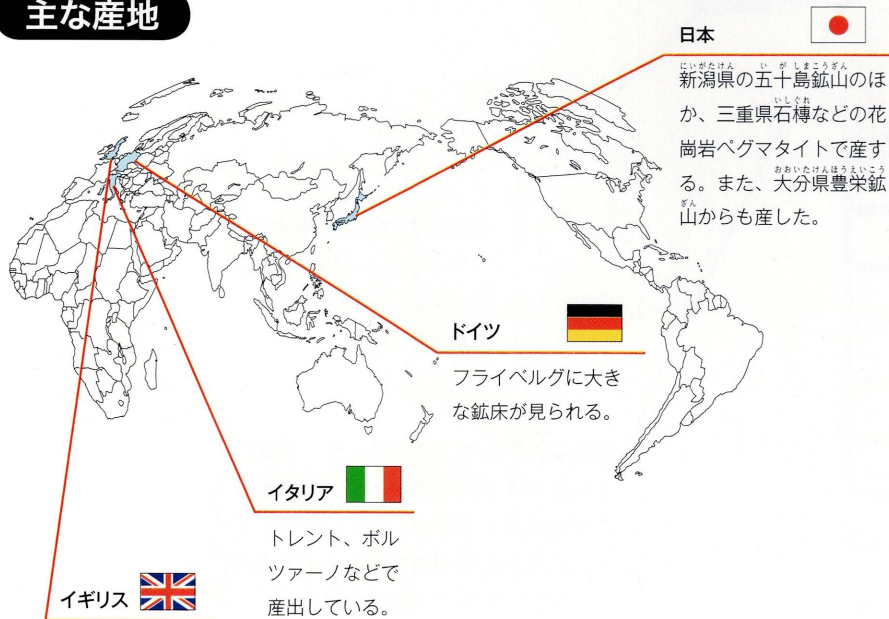
▲▶ 宝石用に加工された蛍石の結晶。



▶ ピンク色した蛍石。国立科学博物館所蔵。



主な産地



▲ 閃亜鉛鉱をともなった蛍石。